



# 木曽川下流自然観察会

<http://owari.eco.coocan.jp/kisogawa.html>

日時 2024年1月14日(日) 9:30~12:00(快晴)

参加者 一般:8名

指導員:5名

## テーマ 野鳥 20種を探そう!

寒風吹きすさぶ前日の天候とは打って変わって、快晴で風もない絶好の観察会日和です。暖冬のせいか今季は冬鳥の姿が数多いと言われていまして、この日の目標は野鳥20種を探してみることです。(昨年は18種、一昨年は21種でした。)

ツグミやシメの群を期待して樹冠回廊方面に向かいましたが、姿は見られたものの個体数は多くありませんでした。

川原では大きなアキニシや竹林が伐採され、クズやセイタカアワダチソウが繁っていた草原も表土が剥がれて無残な姿を晒している、これまで見られたアトリ、アオジ、ベニマシコなどの姿はありませんでした。一方、この伐採によって堤防道路から南派川の水面が見渡せるようになり、カワ

アイサ、オオバン、カイツブリなどの水鳥をじっくり観察できました。大野極楽寺公園の林でも、これまでよく見られたシロハラやイリビタキには出会えませんでした。どうも例年とは様子が違う感じがします。

野鳥観察で一番盛り上がったのは、枝に止まって鳴いていたトビ2羽を見た時です。空を飛ぶ姿は時々見かけますが、これほど近くで見ると眼光鋭い顔つきがはっきり分かり、その迫力に感動です。

結局、この日出会った野鳥は21種で、何とか目標を達成できました。

植物では、樹に残っているクロガネモチ、サンシュユ、シロダモなどの赤い実が目立ちました。これら赤い色の木の実はおいしくないのか、3月頃まで残っていて、レンジャクなどが食べに立ち寄ります。一方、同じ赤い実でも、先月はびっしりと枝についていたアキグミの実はすっかり無くなっていました。鳥にも味の好みがあるのでしょうか。

また、ソシンロウバイが満開で芳香を漂わせ、ミヤマウグイスカグラの花も咲き始めていました。

エノキの幹にはヨコツナサシガメの幼虫が集団を作り、その根元の落ち葉をめくると、裏には褐色になったゴマダラチョウの幼虫が越冬していました。

なお、木曽川橋の下流にコハクチョウが飛来していたら見に行く予定でしたが、1/8に下見で訪れた時には確認できませんでした。(報告:齋竹)

### <その他観察できたもの>

鳥:ダイサギ、アオサギ、コガモ、ヒヨドリ、モズ、キジバト、ドバト、シジュウカラ、エナガ、メジロ、ジョウビタキ、カワラヒワ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、ウグイス(声)

虫:ナミテントウ



(林が伐採され堤防道路から川面が見えるようになった)



(エノキの根元でゴマダラチョウの幼虫探し)



冬に見られるシメ



近くの枝に止まったトビ



枝に残ったサンシュユの実



落葉の裏にゴマダラチョウの幼虫